

「モード学園スパイラルタワーズ現場見学会」に参加して

株式会社 岬建築事務所 下川 隆司

午前中の雨も上がって盛夏本番を予感させる去る7月26日の午後、話題の建物の見学会に参加できました。道を挟んで向かいの現場事務所に何うと骨組み模型が置いてありましたので、思わずしげしげと。

「JSCA 中部 No.65」掲載の構造概要で拝見したとおりの、ほんとに大変（煩雑？）な構造です。構造設計を担当された日建設計の西澤さんと、施工を担当し悪戦苦闘中（24時間体制だそうです）の大林組総括グループ長の清水さんより、それぞれご説明がありました。

階毎に少しずつ回転し、かつ、すぼまっていく平面形状のためコアシャフトより外回りの部材は全て異なり、外部の三角形サッシも同じものは無い、と伺い唖然としました。また外壁面のスパイラル状の切れ込みのために、外壁面の柱が全て斜柱でコアシャフト（インナーチューブ）には常時捩れ応力が発生していること。特殊な外壁面形態のために風洞実験がおこなわれたこと。塔は全体として剛性が高く地震時に全体曲げ変形が主で外壁面の鉛直変位が大きくなるため、一階のサッシ最下部にはそれを吸収するための深いミゾを躯体に設けたこと、またその変形を利用して外周柱に鉛直方向のダンパーを設置していること。地下階は逆打ち工法であり現在最下部を施工中。等の説明を受けました。



外 観

その後全員で現場へ。その道すがら信号待ちで見上げたのが写真です。「サッシの欠けた部分は例の事件の跡？全て違うサッシなのでおいそれと他ので埋められない？」と思いつつ、懐かしい谷まさるのラジオ番組のテーマソングも脳裏に浮かべながら、まずはコアシャフトが1段すぼまる二十数階へ建物外周に張り付いた仮設EVで直行。このEV、複雑なこの外形のどこにどう取付いていたのか思い出せません。鉄骨や取付け前のサッシを見学。写真の如く当然柱も梁も全て斜め、しかもこれが各階ごとに異なるなんて整形しか想像できない私としては目が眩みます。外周梁には現場で追加されたという捩れ止め材が。その後鉛直ダンパーも見学して6階のモデル教室へ。

インナーチューブ
柱・梁仕口部カーテンウォール
捩れ止め

柱も天井も躯体むき出し（全国のモード学園共通のデザインとか）の仕上げ？でびっくり。梁に耐火被覆はありますが耐火塗料の鉄骨柱の溶接跡も含め完成後でも構造的納まりは十分見られそうです。

思いのほか教室の幅が狭くサッシ際まで机で寒暖が厳しそう、上階に行くほどこれより狭まってくるのかと思うと…。

その後長い仮設スロープを下って地下2階へ移動し、地下3階床耐圧盤の施工状況を見学。重機の走り回る雨上りの濡れた巨大な地下室現場、経験のない私には薄暗いSF映画のセットの中にいるような気分でした。既に二十数階床までコンクリートが打たれ、鉄骨は頂部まで立ち上がった塔の基盤がこのような状態で、地震がきたらと心配になりましたが、当然検討済みとのことで、スロープ開口で耐力減となる床部分等は鋼板でバッチリ補強されていました。

この後現場事務所に戻って活発な質疑応答。丁寧に対応いただきました日建設計の西澤さん、大林組の清水さん、そして本企画にご尽力いただいた委員会の皆さん、ありがとうございました。

帰路メルサ前から仰ぎ見た塔の、えも言われぬソリを持った壁面。抜けるような夕暮れの青空に美しく映えており、これだけで十分苦勞する甲斐のある建物では！と感心しました。

PS：ネットで「モード学園スパイラルタワーズ（三井ビル）」と検索すると素晴らしい外観施工状況記録写真が見られます。

ザ・ライオンズ ミッドキャピタルタワー

(株)竹中工務店 名古屋一級建築士事務所
曾我 裕 山田 基裕 横並 努

1. はじめに

本建物は、名古屋市熱田区の金山駅より南東へ約1kmに建設中の、地上47階、建物高さ161.85mの共同住宅である。1万m²を超える広大な敷地に対し、総合設計を活用したタワー型の住棟計画により、近隣への緑地・広場・歩道の提供と容積割増による土地有効利用の両立を図っている。また、免震構造の採用により、安全性、快適性、更新性に優れた住空間を実現している。



図-1 外観パース

2. 建物概要

本建物の基準階伏図、軸組図を図-2、図-3に示す。平面形状は東西45.0m×南北28.5mの長方形であり、建物中央部には19.0m×7.5mのボイド空間を有している。1階床下に免震装置を配置した免震構造を採用し、屋上には着床式ヘリポートを設置している。

建物名称	ザ・ライオンズ ミッドキャピタルタワー
建設地	愛知県名古屋市熱田区六野
用途	共同住宅
建築主	(株)大京
設計	(株)竹中工務店 名古屋一級建築士事務所
施工	(株)竹中工務店 名古屋支店
建築面積	4,237.31m ²
延床面積	49,966.93m ²
階数	地上47階、塔屋1階
軒高	160.80m
建物高さ	161.85m
構造種別	鉄筋コンクリート造
基礎形式	パイルド・ラフト基礎
工期	2006年10月～2009年3月

3. 構造概要

上部構造は鉄筋コンクリート造による純ラーメン構造である。建物外周部の架構と内部ボイド周りの架構からなるダブルチューブ架構は高い剛性を確保するとともに、住戸内への梁の配置を最小限とし、住戸のフリープランを可能としている。南面は9.0mのワイド

スパンとすることにより、豊かな眺望を提供している。

構造材料として、コンクリートは最大でFc78N/mm²、鉄筋は最大でSD490のD41を用いている。

床には空洞プレストレスト合成床、ハーフプレキャスト合成床を採用するとともに、柱及び梁のプレキャスト化により、超高層建物における施工の合理化を図っている。

免震層においては図-4に示すように、鉛プラグ入り積層ゴム、天然ゴム系積層ゴム、弾性すべり支承、直動転がり支承を配置している。免震装置の配置は、積層ゴム及び弾性すべり支承により長周期化を図ること、すべり支承及び鉛プラグの履歴減衰により、地震時の応答を効果的に低減すること、風洞実験結果より設定された稀に発生する暴風に対して鉛プラグが降伏しないこと、弾性すべり支承が滑動しないことなどを目標として決定している。また、地震時に大きな引張力が発生する隅部においては、高い引張限界強度を有する直動転がり支承を配置している。

基礎形式は直接基礎と先端をGL-54.5mの海部弥富累層に定着する場所打ちコンクリート拡底杭を併用したパイルド・ラフト基礎を採用した。

4. 地震応答解析

地震応答解析モデルには47質点系等価曲げせん断棒モデルを採用した。

設計用入力地震動波形は告示波3波、既往の観測波3波のほか、建設地周辺におけるサイズシティを過去の歴史地震動や活断層分布を考慮し、東海・東南海地震を模擬した地震波2波を採用した。入力地震動波形の最大速度振幅及び最大加速度振幅を表-1に示す。各地震動入力レベルに対して設定した上部構造、免震層、基礎構造の耐震性能目標値を表-2に示す。

図-5に免震材料の特性を基準値とした場合の極めて稀に発生する地震動に対する地震応答解析結果を示す。最大応答変形角はG方向1/284(34F)、B方向1/236(33F)、免震層の最大応答変位はG方向47.6cm、B方向48.3cmであり、いずれも目標値を満足している。また、免震材料の特性のばらつきを考慮した場合についても、各応答値が目標値を満足していることを確認している。

5. 風応答解析

風応答解析モデルには、地震応答解析モデルに回転慣性及び振れ剛性を考慮するとともに、免震層において各免震装置位置に等価な剛性、耐力を有するマルチスプリングを配したモデルを採用した。風外力には風洞実験結果に基づき設定した極めて稀に発生する暴風の時刻歴データを用いた。

風応答解析の結果、各応答値が耐震性能と同等の目標値を満足していることを確認している。また、最上階における強風時（再現期間1年）の居住性能は、水平振動に関する性能評価曲線（日本建築学会「建築物の振動に関する居住性能評価指針同解説」）においてH-10を下回り、良好な居住性能を有することを確認している。

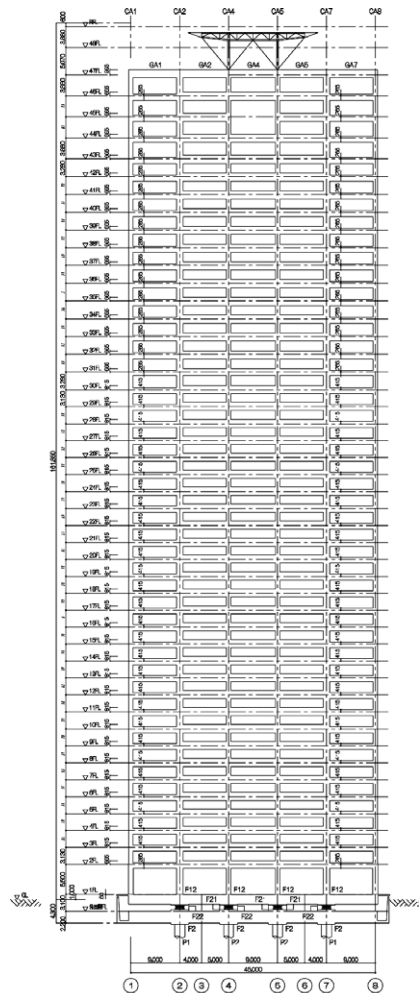


図-3 軸組図

表-1 設計用入力地震動

地震動波形	稀に発生する地震動のレベル (レベル 1)		極めて稀に発生する地震動のレベル (レベル 2)	
	速度 cm/s	加速度 cm/s ²	速度 cm/s	加速度 cm/s ²
告示波 A (八戸港湾 1968EW 位相)	10.8	107	43.5	236.5
告示波 B (神戸海洋気象台 1995NS 位相)	14.2	94	66.7	284.3
告示波 C (鋼路地方気象台 1993NS 位相)	10.7	78.2	57.2	309.3
東海・東南海地震波 NS	—	—	58.6	330.2
東海・東南海地震波 EW	—	—	47.3	308.3
EL CENTRO 1940NS	25	255	50	511
TAFT 1952EW	25	248	50	497
HACHINOHE 1968NS	25	165	50	330

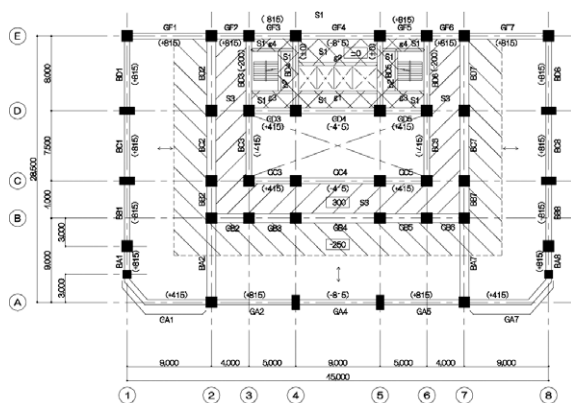


図-2 基準階伏図

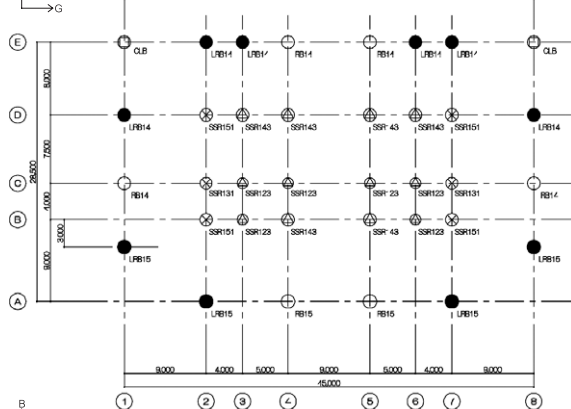


図-4 免震装置配置図

表-2 耐震性能の目標値

レベル		レベル 1	レベル 2
上部構造	層間変形角	3.3×10^{-3} rad 以下 (1/300 以下)	5.0×10^{-3} rad 以下 (1/200 以下)
	部材応力	短期許容応力度以下	弾性限界耐力以下
免震層	水平移動量	65cm 以下	65cm 以下
	直動転がり支承	限界強度 $\times 0.9 \times 2/3$ 以下 (圧縮・引張とも)	限界強度 $\times 0.9$ 以下 (圧縮・引張とも)
	引張面圧 (積層) μ	生じない	1N/mm ² 以下
	圧縮面圧 (積層) μ	圧縮限界面圧 $\times 0.9 \times 2/3$ 以下	圧縮限界面圧 $\times 0.9$ 以下
基礎構造	部材応力度	短期許容応力度以下	弾性限界耐力以下
	支持力	短期許容支持力以下	短期許容支持力以下

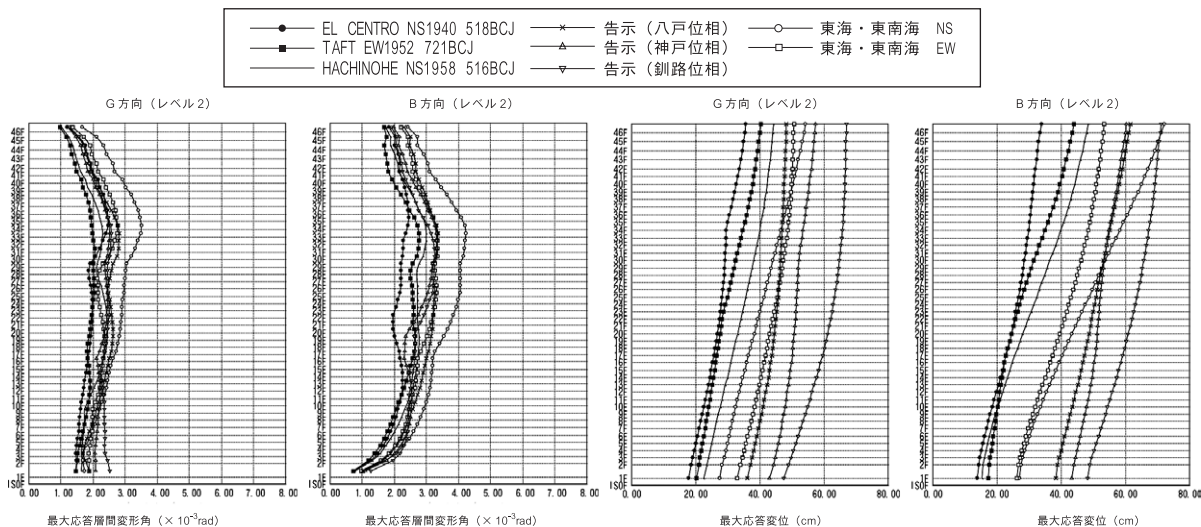


図-5 地震応答解析結果

『梶山女学園大学渡辺教授のコンクリート講演』

株式会社 キープ 孕石 好治

2007年8月8日、名古屋センタービルにおいて、梶山女学園大学の渡辺誠一教授の講演会が開催されました。出席者は29名で大変盛会でした。

渡辺先生は、日建設計、伊藤建築設計事務所に勤務され、近年は梶山女学園大学の教授として教鞭を執られました。設計から教育と、大変幅広く御活躍されております。またJSCA中部支部の初代支部長であり、PC構造設計指針の作成委員や、日本建築センターの構造評定委員等も歴任されています。

当日は下記のテーマにて講演されました。



講演される渡辺教授

テーマ1 『場所打ちコンクリートスラブの下地の違いによるスラブ表面乾燥収縮ひびわれ』及び『透水型枠によるコンクリートの物理的性質改善に関する実験的研究』から

テーマ2 『作品紹介』

テーマ1は「RCスラブのひびわれと型枠の関係」について論じられたもので、大変興味深い内容でした。姉齒元建築士の事件以来、我々建築関係者に対して一般の建築ユーザーから出された質問は、「壁、スラブのひびわれ」に関するものが最も多く、「なぜ」「どうして」から始まり「安全性は」「耐久性は」と質問の嵐にあいました。また、一般の方と建築関係者との認識のズレを強く感じました。その意味で、テーマ1は基本的でありながら、新しいテーマでもありました。

テーマ2については、作品を追いつつながら、かつての部下として少し詳しく御紹介します。

(1) 中京テレビ放送塔 (1969年) <中部建築賞>

- ・初の鋼管構造によるテレビ塔として作られた。
 - ・太径高力ボルトの製作とフランジ継手の採用
 - ・柱脚部の巨大マスコンクリートの配筋と打設法
- cf…各種計算規準が存在しない時代に、材料を選定し、強度を求め、許容応力度を設定し、荷重を想定し、日本建築センターの評定を求める等、一人の人間の限界を越えていると思われた。

(2)-1 アサヒビール名古屋工場 (1974年) <BCS賞>

- ・製品棟：スパン30m正方形に当時としては例の少ない鋼管構造現場溶接オクタブラッテ（スペースフレーム）の採用。
- ・接待館：張弦梁の元祖と言うべき架構をデザイン。

(2)-2 アサヒビール茨城工場 (1991年)

- ・製品棟：2階建て、屋根：スパン64.8m鉄骨張弦付アーチ構造、桁21.6m、テクトラス21.6m角ユニットを採用。1階はPC組立てラーメン構造（床用積載荷重 $2t/m^2$ ）、柱は剛性を補う意味で疑似CFT構造。
- cf…もちろん、CFTの規準は無かった。
「Fail Safe」を常に考えておくと教えられた。

(3) 一宮地方卸売市場 (1982年)

<プレストレストコンクリート技術協会作品賞>

- ・PC（プレストレストコンクリート）造
- コンクリートの引張（せん断）に弱いこと、実用スパンの短いこと（重い）を解決するのにプレストレスを導入し、引張力をキャンセルし、長スパンを実現している。
- cf…渡辺先生のライフワークとなり、後に京都大学より工学博士を授与されている。

(4) ツインアーチ138 (1996年) <JSCA賞>

- ・木曽三川公園の展望塔である。
- ・最高高さ138m、地上100mの展望室を2つのクロスさせたボックス型の鉄骨アーチで構成している。
- ・風洞実験による風圧力の策定。
- ・高所作業の安全性を考慮し、地上で組み立て、仕上を行う、リフトアップ工法を採用している。

(5) 梶山女学園大学生生活科学部棟 (2006年) <中部建築賞>

- ・設計は日総建さんが担当
- ・学部建設委員会推進委員として指導された。



一宮地方卸売市場

講演の後、引き続き催された懇親会にも多数の方に参加していただきました。竹中工務店の宿里副支部長の御発声で乾杯し、和やかなうちに閉会となりました。

最後に、本講演の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員会各位に御礼申し上げます。

愛知県指定構造計算適合性判定機関の現況

(財) 愛知県建築住宅センター 橋村 一彦

改正基準法の施行に伴い本年6月20日より業務を開始した愛知県指定構造計算適合性判定機関である(財)愛知県建築住宅センター(以下「住宅センター」という)の組織、現在の業務の概要について述べる。

(1) 組織について

昨年の改正基準法の公布以来、県建築指導課を中心に組織作りがなされた。過去のデータより年間の適判件数は3600件程度と予測されている。6月6日に知事指定を受け判定機関として正式に発足した。住宅センターの陣容は、固有の職員、県・特定行政庁からの出向職員合わせて17人、及び常勤の構造計算適合性判定員(以下「判定員」という)4人が住宅センター判定グループに所属する構成となっている。その他、非常勤の委嘱判定員として、週1~2日、月2日等の勤務形態で、59人の方に登録頂いている。判定業務は4チームに分かれており、1つの物件に、判定員2名(内1名は委嘱の判定員)と構造判定業務補助員1名で判定にあたる。判定グループのメンバーは判定員を除いて4月より職務についており、構造計算適合性判定業務規定・事務処理要領の作成、判定の実習等を進めた。

(2) 業務について

6月20日より判定機関として業務を開始したが、当初は判定物件はなく、グループ職員は業務の円滑な進捗の為、「構造計算適合性判定事務処理マニュアル」の作成・整備等を行った。又、判定員向け、主事向け等のホームページも立ち上げており、その中で連絡事項、審査上からのQ&Aも内部公開している。

設計方針設定、モデル化等について設計者より相談を受ける「事前相談」も18件まで実施したが、国の指導により現在は中止している。今後、方法等を再検討して復活したい事項である。

具体的に判定案件が指定確認機関から送付されだしたのは8月に入ってからであった。その後少しずつ件数は増加し、9月末現在次の通りである。①現在審査中:39件(「適正に行われたものであるかどうかを判定する事ができない」為補正・追加説明を求める「通知」含む)、②「適正に行われたものであると判定する」と「通知」したもの:4件、③事前通知(7~10日後に適判に送付する旨の通知):50件、である。件数は増加しているものの10月も当初予想の何分の1かである。一旦提出したら訂正ができず、訂正を要する場合再申請となることから、申請者側に模様眺め、極めて慎重になる状況を作っている。

現在は、建築主事等の機関で、法に定められた審査方針に則り慎重に審査されていると聞き、確認申請許可の滞りがみられると世間で言われている。今後、住宅センターにこの滞っている物件が、どっと送付されることも予想される。

(3) 初期の判定物件から

いくつかの未確定的な事項を残したまま法施行に至った(技術基準の発行が8月中旬、認定プログラムはまだない等)こと、構造

的な内容が画期的に変わったわけではないが提出しなければならない図書等が相当増加したこと等から、出す側、見る側双方にいろいろ戸惑いもある。ただこの面は少し回を重ねればある程度慣れ・習熟が期待される。

住宅センターに提出された初期の何件かの物件に見られる状況は次のような事である。

(i) 本来建築主事等で審査・指摘すべき項目が、判定機関側での計算書・図面審査の過程でかなり見られる。勿論、慎重に審査されたものでも、見る人が変わり更なる目でみると指摘が出るのは止むを得ないところもある。例えば、審査要領に明記されている書類・図面の添付がないとか図面間の不整合が見つかること、あるいは、構造計算概要書には『バランスよい』との記述があるも偏心率の『割り増しは1.5』、などである。

(ii) 正しく処理されているものでも、もう少しわかり易く説明を記述しておいて頂くとよいものがある。改正法施行前から言われていた、「他人がみて分かる計算書」を作成することである。補正・追加説明をして頂いたものが多くある。

(iii) 現時点迄に審査した物件には、判定員の方々が、モデル化等において判断に悩む程のものは余り見られず強いてあげれば1件かと思われる。

(4) 今後に向けて

確認許可に相当時間がかかっている現実や、修正ができないことへの設計者、建築関連団体からの苦言もなされている。今後ぜひ改善したい事項についての意見は今回は述べないが、判定機関としては、次の点を考えながら公正・適確かつ迅速に対処していきたい。

この制度は、日常実施設計業務に携わっておられる方が一方で審査するという、今までにないものであり制度がうまく機能することによって結果的に全体の技術力レベルアップに繋がって欲しい。

また、判定業務は、(イ) 判定業務そのものは法律に定められていること、(ロ) 他の設計を審査することから守秘義務遵守が大切であること、に特に留意し業務の推進に努めたい。

判定業務をスムーズに実効性のあるよう進めるべく、判定員としてご参加頂く会員の皆様のご協力の程宜しくお願い致します。

(以上、9月末記)



愛知県指定構造計算適合性判定機関の執務状況

OMR／B工法による2倍拡底杭 勉強会

技術委員会地盤系部会 高木 晃二

去る8月7日に、丸五基礎工業(株)殿のご協力をいただき、平成18年6月に日本建築センターの評定を取得された「OMR／B工法による2倍拡底杭(奥村・丸五バケット式拡底杭工法)」の勉強会を地盤系部会として開催しました。参加者は計13名、丸五基礎工業(株)技術研究所の青木所長殿より、工法の概要、評定の特徴・裏話などをお聴きし、新しい杭工法の利点を確認しました。

既製杭による高支持力競争の中、場所打ちコンクリート杭についても更に高支持力を求めている開発が行われています。以下、「2倍拡底杭」について当日お伺いした内容を列記してみます。

◆ 新規開発の背景

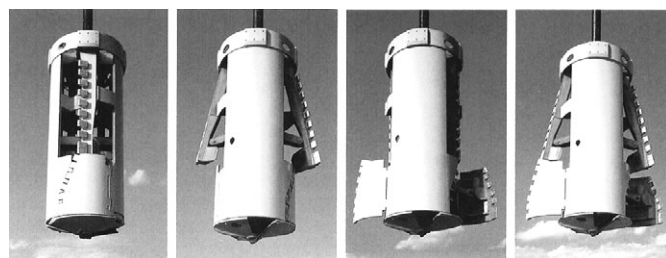
- ・ 超高層マンション等、近年杭に作用する荷重が増大してきている。
- ・ 杭頭半剛接合工法が開発され、杭径を小さくできる可能性が出てきた。

◆ 工法の概要

- ・ 最大拡底率(=有効底面積／軸部面積)が4倍になり、既評定杭の拡底率に比べて最大1.65倍まで広げることができ、大きな支持力が期待でき経済的な設計が可能になる。
- ・ 使用するコンクリートの設計基準強度が、従来の32N/mm²から最大42N/mm²まで拡大することができ、同じ軸部径でも大きな杭耐力を期待できる。
- ・ 拡底部径を大きく、コンクリート強度を上げることににより、軸部径を細くすることができ、掘削量や安定液を減らすことが可能になる。
- ・ 拡底ビットを上下2つに分割し拡底掘削を2段階に分けて行うことで、小さなトルクでの拡幅掘削が可能になる。



掘り出された試験杭



2分割された拡底ビット

◆ 評定事項の概要

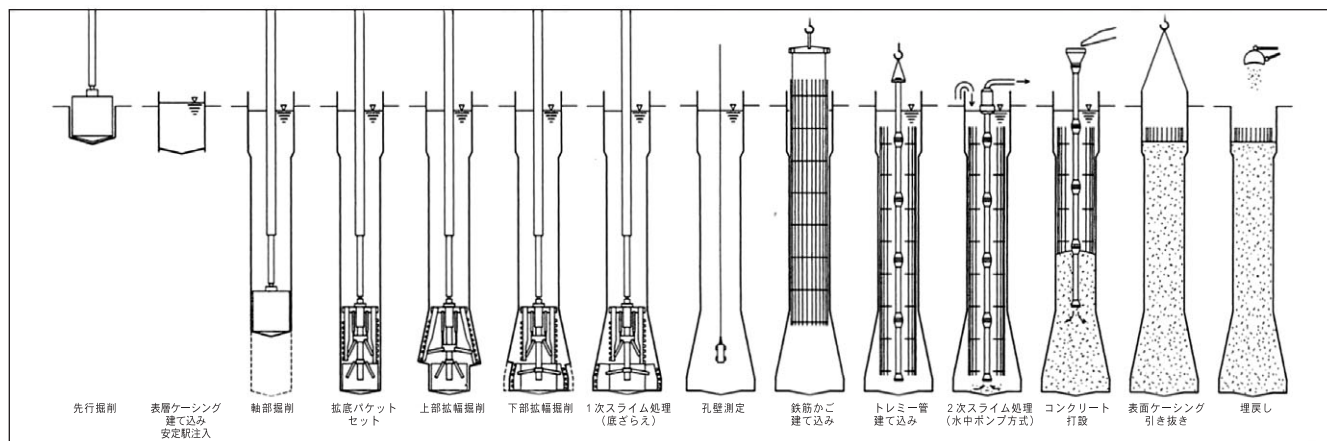
- ・ コンクリートの許容応力度
従来の許容応力度式で $F_c = 18 \sim 42$ に対応
- ・ OMR／B杭の寸法
軸部径 700mm ～ 3400mm、拡底部径 800mm ～ 3500mm
拡底角 12度以下、立上り部 500mm 以上、
最大拡底率 4.0 倍以下

◆ 質疑応答ほか

- ・ 拡底角 12度は拡底部のせん断耐力により決定している。
- ・ コンクリート強度アップに伴いコンクリートに粘りが出るため、スランプは21程度に調整している。
- ・ 運搬の関係上、表層ケーシング径は700mm ～ 3200mmの範囲。
- ・ 1700φの軸径には全旋回の2000φが使用可能。地中障害撤去時に+aのメリットがある。
- ・ 杭支持力からの軸径は細く設計できるが、杭頭曲げモーメントに留意する必要がある。

インターネットやカタログでは何気なく眺めていた内容も、開発時のお話を伺うと「なるほど」と思うことが多く、設計する際の疑問点の解消にも繋がっていきます。

地盤・杭等に関する情報・疑問を持っておられる方、部会のテーマとして取り上げていきますので、地盤系部会までご連絡ください。多くの意見、部会への参加をお待ちしております。



杭の施工手順

回転貫入杭の継手仕様について

旭化成建材株式会社 イーゼット営業部 國松 諭

■はじめに

一般的に長尺杭と言われるものは、継手接続を介して杭を継ぎ足し、所定の深度まで埋設される。

これら継手の施工では、構造的に杭本体と同等以上の性能を有することはもちろんの事、溶接施工者の技量、施工時の天候、管理技術者の設置などに配慮しなければならない。近年では、これら溶接継手以外に、各社が独自で開発した機械式継手の採用が増加しており、溶接継手と比較した場合、作業時間の大幅な短縮、特殊な技量を必要としない施工精度、安定した施工品質などの特徴をもって、各施工現場でのさまざまなニーズに対応した形となっている。

また、回転貫入杭の材質は一般的に鋼管タイプであり、設計的な配慮から上杭鋼管を厚くする異厚接続の組合せも多く、機械式継手はそのような状況にも十分対応できる構造となっている。

■CCジョイント継手について

スクリーパイル EAZET 工法では、機械式継手としてCCジョイント継手（カプラー・クリッパー式継手）を採用し、現在では全継手物件の40%以上を占めている（写真-1）。CCジョイント継手は、カプラー、クリッパー、トルシア型高力ボルトから構成されており、継手部の全体仕様は、杭端部に設置されたカプラーに、複数のクリッパーを設置し、高力ボルトを用いて内側から楔の原理で機械的に接合する継手である（図-1）。



写真-1 CCジョイント継手

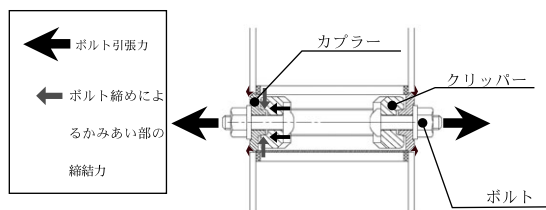


図-1 CCジョイント継手の標準構造図

■構造性能

各部材の規格は表-1の通りである。CCジョイント継手は、設計上継手による杭体の許容軸方向力の低減率が0%として評価を受

表-1 CCジョイント継手 各部材の規格

部材	規格
カプラー	JIS G3106 溶接構造用圧延鋼材 SM490A
クリッパー	認定番号 MSTL-0157 S45C-H
ボルト	トルシア型高力ボルト M16,M20,M24

けている。

CCジョイント継手の曲げ剛性については、杭体の単純曲げ試験を行い、杭本体（素管）との比較試験を行った（図-2）。試験結果から、杭本体と同等以上の曲げ性能を有していることが確認されている。

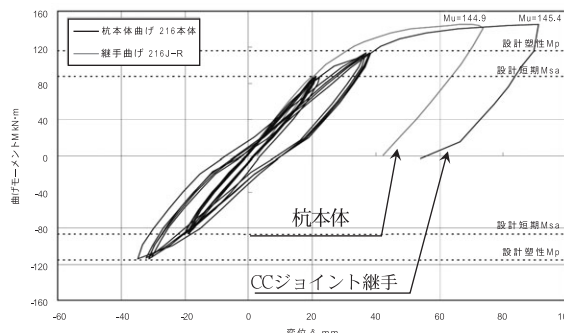


図-2 曲げモーメント-変位関係 比較図

■適用範囲

EAZET 工法におけるCCジョイント継手の適用範囲は表-2の通りである。

表-2 EAZET 工法における適用範囲

適用杭（下杭・中杭）		
鋼管径	材質	鋼管厚
165.2	STK400	5.0~9.0
	STK490	3.8~7.1
190.7	STK400	5.0~9.0
	STK490	4.5~7.0
216.3	STK400	6.0~10.0
	STK490	4.5~8.2
267.4	STK400	6.0~10.0
	STK490	6.0~9.3
318.5	STK400	6.0~10.3
	STK490	6.0~9.0
355.6	STK400	6.0~9.5
	STK490	6.0~9.0

■おわりに

これまで、小口径の回転貫入杭では、継手溶接部の品質管理が難しいとされてきた。しかし、旭化成建材ではCCジョイント継手を提案することで、より高品質・高性能の杭を提供し、また非常に簡易な作業であるため工期短縮にも大きく貢献することが可能となった。今後はスクリーパイル EAZET 工法の標準継手として提案していく次第である。

環境に優しい鋼管杭工法



EAZET

（イーゼット）

高性能・信頼性・コンパクト・環境性

AsahiKASEI

旭化成建材

〒460-0003

名古屋市中区錦2-2-13（名古屋センタービル）

TEL.052-212-2244

<http://www.eazet.com>

会員紹介

会員のみなさま
PRのページです。
どしどし御応募下さい。

連絡先：大成建設(株) 大島
TEL: (052)562 - 7553

構造設計に携わって二十年近くになりますが、未だにわからないことが多く、自分自身の知識と技術力の無さを痛感する日々であります。また、今回の建築基準法の改正に伴い四苦八苦している自分自身にも危機感を覚え始めています。JSCAに入会し、講習会等の活動や会員の皆様との交流を通じて知識を広め、技術向上に努めて着実に前進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

T.S 建築設計

姉崎 哲也

設計事務所、構造設計・耐震診断及び耐震改修設計を行っております。日々、業務の中で、構造に関する技術や知識を学ぶことばかりですが、物事を学び、自分自身で応用していく楽しさを感じてがんばっています。これからも、様々なことを学び得て、建築を楽しんでいきたいと考えています。休日は、スポーツジムにいて、体力強化に楽しんでいます。

(株)浦野設計

黒野 幸弘

構造計算プログラムの開発・超高層建物の設計など幅広く様々な技術を学んできました。趣味も幅が広く、パソコン（今までに10台以上のパソコンを自作済）・車（ロードスター所有）・家電（一通りの最新デジタル家電揃ってます）・TVゲーム（ゲーム歴25年）・甲虫（20匹以上飼育中）・卓球（健康維持のため）等々興味のあるものにはすぐに手を出してしまう性格です。（ただのヲタクかも…）

大成建設(株) 名古屋支店
武田 基

入社16年、JSCAに入会して2年の月日が流れました。東京から名古屋に赴任して、やはり2年になりますが、忙殺されてあっという間に過ぎてしまった感じです。特に最近基準法改悪に振り回され、全てのJOBで破綻寸前の惨状を呈して参りました。名古屋での任期も残り1年程度（で帰れるといいのですが）ですので、短い付き合いになるかと思いますがよろしくお願い致します。

(株)日本設計 名古屋支社
相京 正巳

事務所の開設と同時にJSCAに入会させて頂き、3年が経ちました。この間、地震や台風の多発、そして、耐震強度偽装問題から始まった建築基準法等の改正など、社会が私たち構造技術者に求めることが大きく変化したことを、身をもって実感しています。JSCAの諸先輩方からの助言や最新の情報を自身のものとして修得しながら、これからも、日々謙虚に建築構造技術者として業務に励んでいきたいと思っています。

奥島則之建築設計事務所
奥島 則之

建築の構造設計という職業に就いて28年目、そして自分の事務所を開設して15年目の夏が過ぎたところです。長きに渡りご愛顧頂いている方々に感謝の気持ちを伝えたく思います。私の事務所の正面には富士山がそびえています。6/20の法改正以来構造設計者にとっては理不尽とも言える厳しい業務状況で肉体的・精神的に辛い夏の日々となっていますが徹夜明けの富士の美しさに癒される日々です。

構造デザイン
藤田 和也

入社して10年経ちました。その間、東京～仙台～東京と勤務地が変わり、昨年から出身地の名古屋に勤務することになりました。名古屋での仕事は自分の生まれた病院の建替え計画、友人の勤務しているビルの耐震補強工事など規模は小さいですが身近な仕事が多く、東京、仙台に勤務していた時とは違った思い入れで仕事をしています。今後も微力ながら地元のために貢献したいと思っています。よろしくお願いします。

(株)NTTファシリティーズ 東海支店
長江 健治

建設会社の設計部で構造設計という職を得て早20年あまり…。その間2度の転勤を経て名古屋に辿り着きました。JSCAとは、これまでもいろいろな見学会や勉強会等に参加させていただきました。これからも可能な限り各種行事に参加して最新の構造技術を取得し、業務に役立てたいと考えております。昨今の新法対応等で目まぐるしい日々を過ごす毎日ですが、好きな山歩きでたまにリフレッシュしています。

(株)鴻池組 名古屋支店
吉川 真次

新型 JE I 型

新建築基準法に適合

ジャストベース®

特徴；
保有耐力接合を満足
柱脚の小型（コンパクト）化
アンカーボルトに異形ねじ鉄筋を使用したボンドタイプ
アンカー穴充填材ジャストリングを採用

各種構造計算ソフトに登録中

露出型弾性固定柱脚工法
(財)日本建築センター評定 No: STO 153-01
国土交通大臣認定 No: MSTI-0817



総販売元：昭光通商株式会社 名古屋支店
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目8-10
(白川第3ビル6F)
物資建材 Tel: 052-582-9555 Fax 052-581-4893
<http://www.shoko.co.jp>

技術サポート：コトブキ技研工業株式会社 大阪支店
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目5-15
(新大阪セントラルタワー10F)
Tel: 06-6303-3366 Fax 06-6303-3100
<http://www.kemco.co.jp/kennzai>